

土・ひと・くらしをつなぐ、香川の交流誌

さ ら り

2

2021 FEBRUARY

【めぐりスペシャル】
赤く輝く一粒は、技術と努力の結晶。
「香川県産イチゴ」
【らいふスペシャル】
家族で考えたい
「遺品整理」と「生前整理」

父の志と技術を
継承し、目指すは
知恵ある農業！

JA香川県は
自己改革に
取り組んでいます！



農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化

JA香川県では
「新型コロナウイルス
感染症対策本部」を
設置し、感染防止に
取り組んでいます。



赤く輝く一粒は、技術と努力の結晶。

あぐり special

川県産イチゴ



インパクトたっぷりの真っ赤な外見と甘い香り、そしてみずみずしい食感で私たちを虜にする、イチゴ。香川県は全国に先駆けてイチゴの「高設養液栽培」が普及し、さらにオリジナル品種「さぬきひめ」のブランド化にも成功した、西日本有数の産地です。旬真っ盛りのおいしさを、今年もたくさん味わってください。

JA香川県は「農業振興アクションプログラム」において、主要野菜10品目※の平均単価向上による農業者の所得増大に取り組んでいます。

※青ネギ、アスパラガス、ブロッコリー、レタス、ナバナ、キュウリ、ミニトマト、タマネギ、ニンニク、イチゴ



日々、勉強。そして挑戦。
イチゴ栽培の奥深さに魅せられて。

香川県のイチゴ栽培は高設養液栽培の普及と栽培管理マニュアルの確立により、若い世代の新規就農者も比較的多い品目です。河野さんは、香川県立農業大学校を卒業後、ほかの仕事に就きながら友人たちの農業を手伝うなどして、農業関係のネットワークを構築。平成13年から奥さまと二人、友人たちの力も借りて手作りのハウスを建てるところからスタートし、平成17年から本格的に就農したそうです。

香川県のほぼ全域で生産されているイチゴは、当JAの主要野菜10品目の一つ。各産地ごとの生産部会を束ねる県域の組織もあり、今回訪ねた河野英樹さんは、その部会長も努める先進生産者の一人です。25ルアの規模で、県オリジナル品種の「さぬきひめ」6ルアと「女峰」12ルア、「さちのか」少量を夫婦で管理しています。



香川県野菜花き生産者研究会 監事
香川県野菜花き生産者研究会 いちご部会長
このひでき
河野 英樹さん(54歳)
〔高松市香南町〕



「香」

イチゴ栽培は奥が深いですよ。
施肥はもちろん、芽かぎや葉か

ぎ（脇芽や茂りすぎた葉を取り除くこと）、摘花など、シーズンが終わるまで気を抜く暇がありません」と話す河野さん。しかも、画一的な作業ではなく、それぞれの株の違いを観察し、それに合わせた管理をするのが難しいのだとか。

その難しさは、苗作りから始まります。イチゴはツル（ランナー）を伸ばす植物で、親株からこのランナーを次々に伸ばして増やしていくのですが、ここでいかに強い苗を作るかが重要なのです。

「ハウスの環境は機械で管理できる時代になりましたが、苗作りの管理はまだまだ経験値が物を言います。植物との会話は今後も一番大事だと思います。それによって、おいしいイチゴが実ります」と河野さん。

イチゴ栽培年間作業スケジュール

1月			
2月			
3月			
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			

そ

んな河野さんも、「最初の5、6年は言われたとおり管理するの

で精いっぱい。10年過ぎてから植物との会話もできるようになり、要領もわかってきたかな」と言うほど、奥深いイチゴ栽培です。今では、余裕ができた時間を使って環境整備や収量アップ、食味の向上などを追求するため、勉強することはまだまだたくさんあるそうです。

その挑戦の一端として、河野さんは化学農薬を極力使わず、たとえばダニを食べる天敵や、病原菌をやっつける納豆菌などの生物農薬を使う最低限の予防、UV-Bという紫外線の一種の照射でイチゴの大敵うどん粉病の予防など、新しい技術を積極的に取り入れた栽培に取り組んでいます。

「妻と二人の家族経営の良さを生かしながら、収量や品質にこだわっていきなさい」と、河野さんは毎日挑戦を続けています。

県全体が連携し、強い産地づくりを

香川県のイチゴ生産は、小規模経営の農家は年々減少傾向ですが、大規模化や法人化が進み、面積はかろうじて維持できています。当JAの農業インターン制度を利用するなどして新規参入する若い後継者も、少しずつ育っています。河野さんに、県域部会長としての思いを聞きました。

「イチゴは共販品目なので、生産者一人一人が収量を上げて、全体の収量を確保することで少しでも有利販売につなげることを目指しています。それと、一番大事なのは産地全体の連携ですね。生産者としては、JAの担当者や県の普及員とスムーズに連携して取り組めるよう望んでいます。

今シーズンはまだコロナ禍が続くそうなので、例年にも増して地元の方に、近くにおいしいイチゴがあることを少しでもわかっていただけるようPRしたい。イチゴはとても手間がかかる品目で、生産者は皆、手間を掛けて丹精込めて栽培しています。地元の安全でおいしいイチゴを知って、味わってください。」



河野さんは、限られたスペースで株を増やすため、平成21年から「さめきひめ」の栽培に「いちごステーション」というシステムを導入しています。ハンドルを回し棚の高さを調整し、狭いハウス内を有効に使え、通常の1.5倍の量を栽培できます。別のハウスでは平成17年から、発泡スチロールに土を入れる「マルチベンチシステム」で、「女峰」と「さちのか」を栽培しています。



オリジナリティで発展してきた 香川県のイチゴ生産の“今”は？

JA香川県営農部
園芸課

安村 尚将職員

販売促進課

平田 昂己職員

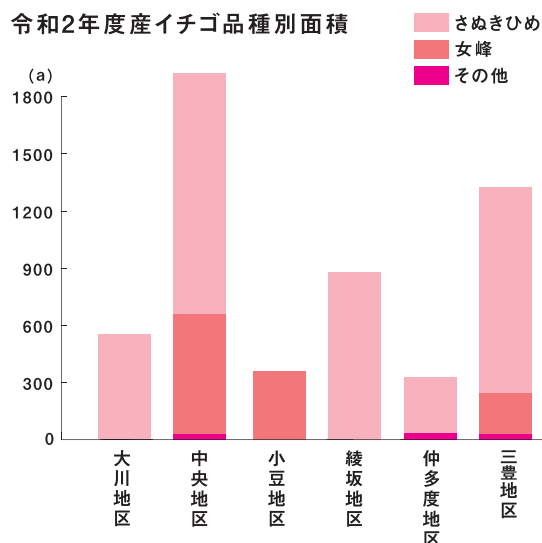
に聞きました。

※向かって左が安村さん、右が平田さん



“産官学連携”で実現した「らくちん」から25年。

令和2年度産イチゴ品種別面積



香 川県のイチゴ生産の歴史は、大正14年、高松市栗林での露地栽培が始まりといわれています。本格的な栽培は昭和27、28年ごろからで、当時は露地栽培、石垣栽培でしたが、昭和35年ごろからトンネル栽培、その後、次第にハウス栽培が普及しました。長きにわたり、イチゴの栽培は地面に立てた畝の間にしゃがんだ体勢での作業が長時間続く重労働でした。そこに革命を起こしたのが、平成8年、香川大学、香川県農業試験場、JA香川県が共同で開発した香川県独自のイチゴ高設養液システム「らくちん栽培」です。

「らくちん栽培」が開発されて、今年で25年目。この間、さまざまな改良を重ねながら普及が進み、今では当JAで出荷されるイチゴのうち9割以上が「らくちん栽培」をはじめとする高設養液栽培。ここまで普及しているのは香川県ならではの、なのです。

「らくちん栽培」×スマート農業 ICT（情報通信技術）で進化を目指す。



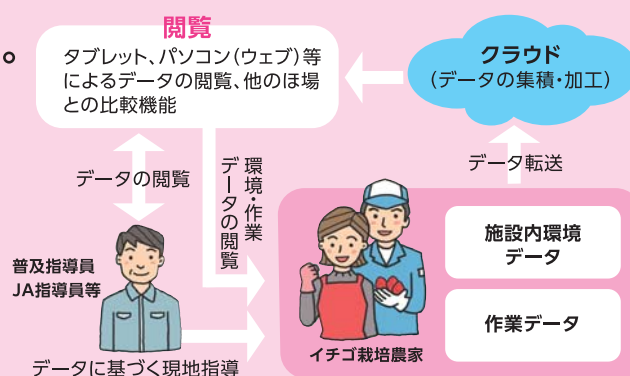
「新型らくちん」コントローラー

香川県方式の「らくちん栽培」は、共同開発された「らくちんコントローラー」で日射比例式の給液制御を行う養液高設栽培です。開発当初は、ピートモスなどの培地を袋に詰めたピートバックを、パイプを組んだ棚に並べてイチゴの苗を植える「ピートバック式らくちん」が主流でした。近年では、ハンモック状に培地を詰め、培地量を増やした「ハンモック式らくちん」といった栽培方式が増えています。

肥料は養液を必要に応じて点滴補給します。ハウス内の温度や日射量を測定し、イチゴ栽培に最適な温度・養液供給量・二酸化炭素濃度に調節します。また、栽培管理マニュアルを作成し、均質な生産が可能な体制を整備したことで、新規参入を比較的容易にしました。

そして今、この「らくちん」システムを次世代型に進

ICTに活用による「見える化」のイメージ



化させる取り組みを、香川県を中心に当JAと県農業試験場などが連携して進めています。

「新型らくちん」はICT（情報通信技術）を活用し、生産者がハウス内の環境や作業のデータをパソコンやスマートフォンで管理・閲覧でき、さらにそれを部会間でも共有できるようになります。

現在は県内で10人ほどが試験的に使用している段階。本格的に実用化すれば、熟練生産者の高い技術を県内の生産者が継承しやすくなるなど、さらなる収量と品質の向上につながるものと期待されています。



県産イチゴは6月ごろまで楽しめます！



今シーズンは、天候に恵まれ日照時間も十分確保できたので生産状況がよく、収量も上がり、県内にも高品質な県産イチゴがたくさん出回っています。ビタミンCが豊富なイチゴを消費者の皆さんにたくさん食べていただきたいと思います。

ウス栽培と技術の進歩により、香川県産イチゴは11月中旬から6月ごろまで長期間出荷できるようになっています。特に、クリスマスから年末年始は需要が高まるため、生産者は有利販売できるこの時期に多く収穫できるよう努力しています。

その一方で、寒い時期にゆっくり大きくなったイチゴは、糖度が高くなり、おいしいというのが、どの品種にも言えます（「さめきひめ」はどの時期でも甘いです）。2月以降はイチゴのおいしさをより楽しめる季節といえるかもしれません。

写真は、中央地区営農センター管内の三木町集荷場。同集荷場管内には大規模化・法人化したイチゴ生産者も多く、県内一の集荷量を誇ります



地産地消を推進

新たな取り組みとして、県内の小・中学校など224校で2月の学校給食に、県産イチゴを無償提供します。おいしいイチゴを子どもたちに食べてもらい、新たなファンづくりにつながればと考えています。

例年2月に京阪神の大消費地で、生産者自らが量販店の店頭に行っているPR活動や県内外でのさまざまな販促イベント、キャンペーンなどが新型コロナウイルスの影響でできていませんが、感染防止対策を徹底し、香川県などと連携して県内のスーパーや量販店で、県産野菜や果物をPRする農産物フェアを行っています。



県産イチゴをPRする「さめき讚フルーツ大使」と県産野菜イメージキャラクターの「ベジさん」

香川県産イチゴの二大品種は「さめきひめ」と「女峰」



さめきひめ



女峰

「さめきひめ」は、県農業試験場が育成し、平成21年に品種登録された県オリジナル品種のイチゴ。香りが豊かで甘みが強く、果実は大玉で柔らかくジューシー。鮮やかな赤色で光沢のある果皮、やや丸みを帯びたまるまるとしたかわいい形をしています。

「女峰」は、しっかりとした果肉と鮮やかな赤色、甘みの中に酸味をしっかりと感じられ、深みのある味わいです。果実はきれいな円錐形えんすいけいをしています。

家族で考えたい「遺品整理」と「生前整理」

らいい special



JA香川県のグループ会社である(株)JA香川県ライフサービスは、組合員・地域住民の生活に資する総合事業のうち主に葬祭事業(JA葬祭)を行っています。

令和2年10月1日から、リアライフ(A&T株式会社)と提携し、遺品整理、生前整理などの事業をスタートしました。



株式会社JA香川県ライフサービス
代表取締役社長

小山 明男さん

高齢化の急速な進行に伴い、終活や空き家の相続、ゴミ屋敷などに悩む人が増えています。また、核家族化、少子化により、孤独死も社会問題化し、こうした問題を解決する業者へのニーズが高まっています。

葬儀や法要を業務内容としている当社でも、このようなニーズに対してお手伝いができないかと考えた結果、地元の専門業者と提携し、サービスを提供することにいたしました。

生前整理、空き家整理などです。

リアライフは、(株)JA香川県ライフサービスが提携する企業です。お見積りからご提案、作業まで、専任スタッフがを行います。また、作業スタッフに女性を指名することもできます。さらに、同社はアジアでリサイクル事業を行っており、日用品、贈答品、食器など再利用できるものはリサイクル、リユースすることで、作業代を軽減するとともに、地球環境にも配慮しています。安心してお任せください。

依頼と作業の流れ

問い合わせから見積り・作業日決定

- ① 当社の高松、善通寺、三豊のいずれかの事業所にご連絡ください
- ② 担当者からお客さまにご連絡をして、訪問日時を決定します
- ③ 訪問して、下見、ヒアリングを行い、見積書を提出します
- ④ 見積内容がOKであれば作業日を決定します

作業当日(1~2日間)

- ① 業務内容の確認と周知
- ② 仕分け作業
- ③ 運び出し作業
- ④ 簡易清掃
- ⑤ 貴重品の確認(現金、貴重品の返却)
- ⑥ 精算



【提供するサービス】

- 家財整理(納屋の整理など)
- 葬儀の際にお困りごととして多い、遺品整理、空き家整理
- 終活のご相談と合わせてご相談の多い、生前整理
- 孤独死による特殊清掃・消臭消毒

※一般廃棄物の収集運搬は、自治体の法令などを遵守して行っております。



before



after

プロに
依頼する
メリットは
？

◆代替わりや離農などで納屋を片付けたい

- 農家の納屋には何十年分ものさまざまな物があることが多いです。
農業機械、電動工具、農業資材、木切れ、鉄屑など、分別に困る物もたくさん。
分別からお掃除まで、全てまとめて整理・処分が可能です。

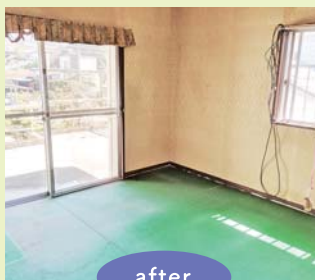
◆ちょっとだけ手伝ってほしい

- 子どもが県外にいて、一人暮らしをしている高齢者の家の整理。
重い物、大きな物が運べないときなど、片付けの部分的なサポートなども行います。

一軒家丸ごと遺品整理をされたSさんの感想



before



after

どんどん出てくる荷物を見てゾッとしました！これをたった2日間で片付けていただいて、感謝しかありません！また、2階の家財はとても自分で運べずお願いして本当によかったです。

◆短時間で終了します（基本的に1日～2日程度）

- 自分で週末ごとに遺品整理を行うと、全て片付くまで数年かかることも少なくないようです。

◆どのように捨てるかを判断しなくてよい

- 押し入れや納戸にしまい込まれた不用品は、処分に困るものが多く、分別方法を調べるだけでも大変です。

◆ゴミ捨ての時間・労力がいらない

- 自分で処分場に何度も持ち込む手間が省けます。
- 一軒家では約2～3トンのゴミが出ることもあり、軽トラックだと20～30回の往復が必要になることもあります。

◆精神的な負担が少ない

- 故人さまの遺品を捨てる・捨てないの判断はご遺族さまが全て行うと思いがよみがえり、作業が遅くなりがち。
- 生前整理の場合は、本人にはモノへの執着・愛着があるため、時間がかかります。
- ご本人・ご家族とコミュニケーションをとりながら作業を行います。
- ご友人、ご近所の方々などに依頼するより気を遣わず、時間もかからないことが多いです。

「遺品整理」は、家族を亡くした精神的な負担に加え、葬儀の手配、遺産の相続、お墓の手配などで忙しくて後回しになり、数年経ってしまったという方や、途中から依頼される方も多いです。

「生前整理」は、できるだけ子どもの手を煩わせたくないという依頼される方のほか、施設に入るため賃貸住宅を退去する、在宅療養で介護のスペースを作るためなど、さまざまな依頼があります。

相続した「空き家」を売る時などは、基本的には家財道具を全て出し、空っぽにしておかないと売却も解体もできません。

また、一人暮らしをしている高齢者のご家族から「ゴミ屋敷」の片付けの依頼も増えています。高齢になると、体が弱ったり認知症になったりで「ゴミ出し」ができなくなり、ため込んでしまう方も少なくないからです。

このようなさまざまなニーズに対応していますので「家の整理に関するお困り事」は何でもお気軽にご相談ください。

サービスのお申し込みやお問い合わせ等については、下記までご連絡ください。

高松事業所（東かがわ市／さぬき市／三木町／高松市／小豆郡／綾川町） ☎ 0120-767-940

善通寺事業所（坂出市／丸亀市／善通寺市／仲多度郡／宇多津町） ☎ 0120-877-142

三豊事業所（三豊市／観音寺市） ☎ 0120-875-142

今月は

チンゲンサイ



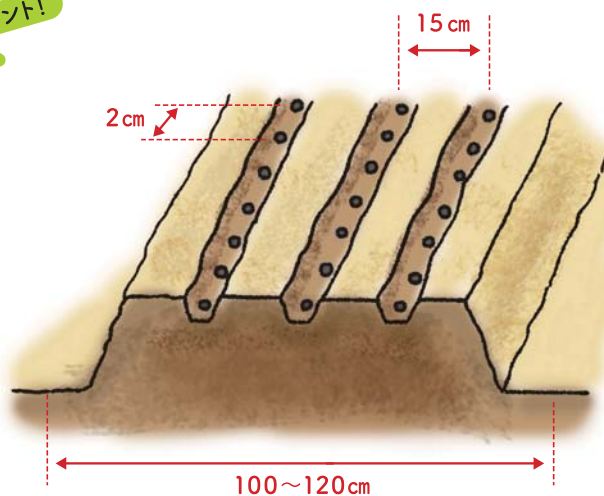
1 畑の準備

畑を荒起こしする。1㎡当たり苦土石灰100g、堆肥2～3kg、元肥として化成肥料150～200gを施す。

●生育期間が短いので、元肥は全層に施す。

2 種まき

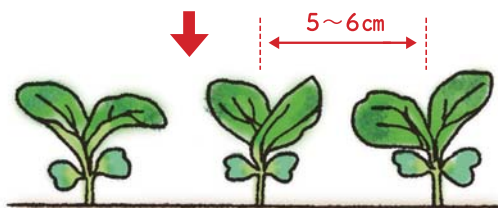
まき溝をつけて、2cmくらいの間隔にまく。薄く土をかけ、^{くわ}などで軽く押さえる。



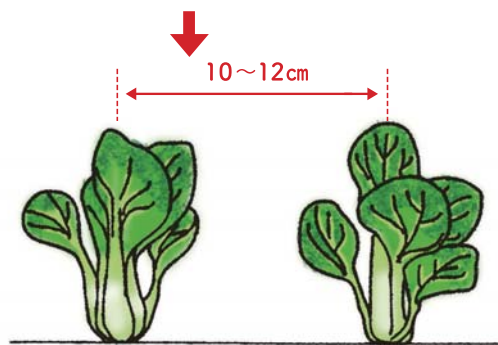
3 間引き



子葉が開き切ったころ、込み過ぎたところや伸び過ぎた株を間引く。



本葉2枚のころ、株間5～6cmに間引く。



本葉4枚のころ、1株おきに間引く。

4 追肥

発芽直後と間引き後に液肥を水やり代わりに与える。

5 水やり・収穫

^{うね}畝が乾いたら十分に水をやる。草丈20cmくらいに育ったところが収穫適期。

●早春からの春まきではとう立ちしやすいので、早めに収穫する。

ポイント!



ホームページ <http://www.kw-ja.or.jp/>



耕そう、大地と地域の未来。



JA香川県
Facebook



JA香川県
Instagram

